

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390200063		
法人名	有限会社 ラポール新世園		
事業所名	グループホームきずなの郷		
所在地	熊本県八代市古閑下町2225番地		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205
訪問調査日	平成26年2月27日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>*生活を共にする中で、自身のペースで過ごせ・思いを受け止め、穏やかで不安のなく、心豊かな表情が継続できるように支援する。                  *各医療機関(かかりつけ医・専門医・協力医・訪問看護など)・家族との連携を蜜にし、心身の負担の軽減に努めたい。                  *年4回(年2回の事業所全体)の手作り広報誌を発行・配布継続で地域に根ざし・貢献できる事業所として取り組んでいく。                  *職員は各関係機関の研修会に参加し介護技術や知識・意識のスキルアップを図っている。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>事業所の周りには畑が広がり、風景の移り変わりを身近に感じることができる環境です。経営者・管理者ともに地域在住であり、地域とのつながりは密にできており、交流も活発に行われています。地元の食材を使つての漬物を利用者と一緒につられ、家族や地域の訪問者との交流のツールともなっています。食事での食材も地元で採れた新鮮なものを取り入れられています。共に支えあう関係を視野に入れて、障害者の就労支援を受け入れられており、スタッフの人材育成に力を入れています。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	:日々の申し送り時理念の唱和を行い、ミーティングや関わりの振り返り時にも、理念に触れ確認し話し合い・具体的なケアについて意見の統一を図っている。	日々、リビングにて利用者と共に唱和されています。変化に応じて理念を再検討することも視野に入れてスタッフ間で話し合いをされているとのこと。理念をより具体化し、ケアの実践につながる目標も掲示されていました。	地域や利用者のニーズの変化に応じて理念そのものを検討していくことも必要だと思われます 理念を共有し、実践されていくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	:経営者・管理者は同地域で生活を営み、事業所の季節行事毎に地域の老人会・生き生きサロン・ボランティア慰問等の出席あり、季節の作物等の交換・交流も有る。	管理者、スタッフとも地域在住であり、地域とのつながりは密にできているようです。また老人会をはじめ、地域の方が施設の季節の行事に参加されることも多く、利用者の楽しみとなっています。	利用者が地域とのつながりを継続して持てるように支援されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	:地域包括センターの方々とも訪問や連絡を継続して情報の交換を行い、経営者は地域の様々な会合に関わりながら認知症のケアの啓発に努め相談も受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	:前回の運営推進会議で取り上げられた検討・懸案事項又、事業所の具体的な取り組み内容・改善課題等、その経過を報告し合い質問・意見・要望等をもらうようにしている。	運営推進委員会では事業所からの報告とともに事業所への意見や要望が出され、それらに対して積極的に対応されています。 老人会の見学を受け入れて、事業所の取り組み内容や具体的な活動についての理解や支援を得られるよう努めています。	地域の理解や支援を得て、今後の事業所の取り組みや課題について検討を重ねていかれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	:グループホーム協議会の研修会や市主催の介護保険関連事業者協議会での参加・連携もあり、事業所の運営推進会議では運営や課題解決に向け相談や質問等に、意見・報告・資料等の提供も受け、行事参加時は家族・利用者・職員との交流もある。	研修会には毎月参加されていて、他の事業所、行政組織と情報交換がなされているようです。また行政の担当者は、事業所の行事や会議に参加され、利用者の暮らしぶりや状態を直接確認されているようです。	現場や利用者の課題解決のためには市町村の理解や支援が必要なことも多く、情報を共有され、より良い協力関係が築かれていくことを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	:勉強会・ミーティングやグループホーム協議会・他機関開催研修会に職員が参加し、身体拘束禁止行為の再確認と日頃、介護する中での気づき等身体状況の情報共有と原因除去図り、心身の拘束に繋がらない様取り組んでいる。	法人内で研修会を実施し、さらに各事業所で研修会の報告と勉強会をされています。 利用者への言葉かけについても不適切な時はスタッフ同士で注意しあい、利用者との信頼関係を大切に対応されているようです。また玄関や居室のドア、窓にも施錠はなく、見回りで対応されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	:事業所内で勉強会やミーティング等を随時実施又、行政・グループホーム協議会・他関係機関の研修会に職員も参加し、高齢者虐待防止関連法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	:事業所内での勉強会やグループホーム協議会・他関連機関主催の外部研修会に随時参加し制度について学ぶ機会を作り、理解を深め必要時それらを活用・支援できるように学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	:契約時、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた対応可能な範囲、起こりうるリスク等説明を行っている。又、必要時や随時、利用者・家族へ十分な説明を行い理解・納得・同意を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	:利用者の言葉・態度からその思いを察する努力をし、家族の訪問時、問いかけ、思いを言ってもらえるような雰囲気づくりに留意し、家族会が出た意見や苦情を代表者から伝えてもらい、運営推進会議の中でも各家族が交代で参加され、思いや意見を出される。	年に一度家族会があり、家族からの意見や思いを受け止めて、それらに沿った対応をされています。具体的には、テレビの視聴時間に関しての意見が出た際に、つけっぱなし状態を止め、童謡やクラシックなどの音楽を流すようにされたとのこと。意見箱も設置されていますが、意見は少ないようです。	意見や苦情に対して速やかに対応するだけでなく、改善の経過や結果を伝えていくことで、より良い関係づくりができるのではないのでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	:月1回の全体会議や勉強会・ミーティングを行い意見・要望・提案等を聞くと共に、職員主体で年に数回の親睦・交流会を設けコミュニケーションを図り又、アンケートや必要時は個別面談も行い、話しやすい場面や機会を作っている。	シフトや人事異動など本人の希望に沿って対応がなされています。要望があればその都度管理者は面談の機会を設け、対応されているとのこと。無記名のアンケートを実施し、職員同士の悩みやトラブルにも迅速に対応され、スタッフが向上心を持って働けるような環境作りがなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	:心身共に健康で「楽しく・やりがいのある職場づくり」をモットーに職場環境の整備・人員確保・希望と個々にあった勤務シフトで意欲向上や働き甲斐のある職場づくりと資格取得等の支援も図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	:同系列事業所への実習で技術や知識の研鑽又、県・市・医療機関・グループホーム協議会・他事業所の研修予定情報の提示を行い、参加機会の確保と多くの職員が受講でき、意識・意欲・知識・技術向上を図る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	:グループホーム協議会主催の管理者・職員の研修、事例検討会等が毎月開催、相互研修・交流を通じて他事業所の意見・体験・経験等を参考にしながらケアに活かしサービスの質向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	:事前面談や相談時に、生活状態や本人の不安・困っていることなどを把握するようにし、本人や家族の思いを受け止め、職員も受け入れてもらえるような関係作りに努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	:これまでの家族の苦労や不安・今までのサービス利用状況など、経緯をじっくり聴きながら家族が求めているものを理解し。事業所としてどのような対応ができるか。事前に話し合いをしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	:相談時、本人や家族の思い状況等を確認し、改善に向けた支援の提案・相談を繰り返す中で信頼関係を築き、担当ケアマネジャー等と連携したり場合によっては他のサービス機関に繋げている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	:本人の言葉・態度・行動の中で、思いや苦しみ・不安・喜び等知る事に努め、得意分野での力の発揮や好まれる事等を見極め、達成感・満足感に繋がり、互いが協働し和やか生活ができる場面作り・声かけをしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	:職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事・気づきの情報共有と本人と一緒に支える為に家族と同じような思いで支援していることを伝えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	:家族や知人・なじみの方々が気軽に訪問されるように、声かけや雰囲気作りをしている。ご家族の都合のいい時間帯・仕事帰り等又、訪問時はゆったりと過ごして頂ける居心地のいい空間づくりを心がけている。	面会は日常的で多くあるようです。ご家族、ご友人、お稽古ごとのお弟子さんなどご本人を支え、ご本人が支えてきた方々の訪問が見られます。時間や人数に合わせて場所やイスの配慮など対応がなされています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	:職員間で利用者の心身の状態や気分・感情起伏の変化などの情報の共有を図り、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけ、注意深く見守っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	:入院や他事業所へ転居した後も家族や担当者からの相談や近況を伺ったり、必要に応じて情報の提供なども行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	* 毎日のケアの中での言葉や行動、表情などから思いや意向の把握につとめている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	利用者の思いや意向をはっきり聞き出せないこともあるそうですが、心身の状況を見ながら時間をかけて本人と話し、意向を確認されています。また、ご家族を交えて本人の言葉になりにくい思いを日々の行動や表情からくみ取ったりして、把握するよう努められています。	スタッフや家族の思い込みにならないように本人の視点に立った意向の把握の継続を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	:利用者本人・家族や関係者などから生活状況の経過・なじみの暮らし方など事前に聞き取ったり、利用後にも本人や家族と話しながら折に触れ状況把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	:一人ひとりの生活リズムを把握すると共に、言・行動を観察し心身状態や出来る事・好まれることなど、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	:本人がより良く暮らせる為に、本人や家族、関係者と話し合ったり意見を求めたりして、現状にあったよりよいケアが出来るようにスタッフ全員で報告し介護計画に反映するようにしている。	アセスメントを含め担当スタッフでモニタリングをし、カンファレンスを行い、一定期間ごとの見直しがなされています。また状態の変化に応じて随時見直しがなされています。	利用者本人の視点にたった、その人らしく暮らし続けるための介護計画をさらに検討されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	:個別にファイルを用意し個々のケア記録を記載、身体・生活状況、本人の言葉・エピソード等いつでも全ての職員が確認でき、情報の共有を徹底し、個別記録を基に介護計画の見直し評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	:本人・家族の変化いく状況、要望に向き合い把握し、必要なときに必要なサービスを臨機応変・柔軟に支援を行うことで、本人や家族の心身の負担の軽減を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	:利用者が安心して地域での生活が継続できるよう、老人会・いきいきサロン・ボランティア団体・祭り(妙見祭＝神馬・花馬)等、地域との接点を見出し、協力を受け懐かしく、楽しまれる機会の支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	:事業所の協力医の他、利用者・ご家族希望のかかりつけ医での医療で通院は家族同行を基本とし、ご家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療のケースもあり複数の医療機関と関係を蜜に結んでいる。	受診や通院は利用者や家族の要望に応じて対応されており、不可能な場合はスタッフが代行することもあるとのことです。受診には日々の状況やバイタルを記入した個別のノートを持参し、医療機関との連携を図られています。適切な医療が受けられるように訪問診療や訪問看護を積極的に受け入れてまいります。	利用者の状況の変化に合わせ、支援の形も変化していくと思われます。本人、家族の要望に沿って、サービスが継続されることを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	:介護職員と訪問看護ステーションの看護師とは、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応等、気軽に相談できる関係ができており、看護師と提携医療機関との連携も密に取れる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	:日頃から、医療機関とは随時、状態報告・相談・指示を受け、状態の悪化防止の支援に努め、入院時は支援状況・服薬関係資料等情報の提供、退院時は回復状況等を見舞い時、関係者やご家族に随時情報を伺ったりして、退院支援に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	:利用者・ご家族の気持ちを大切に、重度化に伴う意思表示を作成、事業所が対応しうる最大のケアについて説明を行うと共に、急変や体調変化時、主治医や訪問看護へ連絡、迅速に対応・指示を受けられる連携確保を図り、利用者の安心に繋がる様に家族と話し合っている。	入所時、看取りを前提とした説明を行い書面にて承諾を得てまいります。現在まで看取りは行われていません。スタッフの受け留め方を含め、様々な取り組みがなされています。	抱える問題点の中から課題を明確にし、その対策を計画的にすすめられるとさらなる質の向上が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	:消防署等の協力をを受け事業所内外の研修・講習会に参加し急変・事故発生時に慌てず迅速に応急手当・初期対応等の実践力が身に付くよう取り組み、医療機関等の資料を基に日頃の気づきの重要性も再確認する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	:年2回、消防署の協力を受け防災・消防訓練や、避難経路の確認、消火器の使い方等利用者と共にやっている又、運営推進会議の中でも情報の提供をして、地域の協力が築けるようにしている。	5月と11月の年に2回、法人合同で役割分担し、緊急連絡の仕方を実践的に訓練されています。出火しないことを徹底するとともに、近隣の事業所や町内会には利用者名簿を提出し、協力体制を築いておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	:勉強会や日々の申し送り時の折に職員の意識向上を図ると共に、日々の関わりの中で利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけやケアを行っているかの確認をしている。	排泄や入浴時は、馴れ合いの中で利用者のプライバシーが軽視されないように言葉かけなど注意を払われているようです。排泄時は本人の了解を得て少しドアを開けて不安を軽減するなど配慮がなされています。居室を訪れる際にはノックするなど基本的なマナーを心掛けるよう申し合わせがされています。	介護専門職として利用者の誇りやプライバシーを意識してケアに当たられることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	:職員は利用者と共に過ごす時間を通して、希望・関心・嗜好等把握し、それを基に意思決定ができる場面づくりを心掛け又、意思表示が困難な方には、表情や言動・行動等の小さな動きを読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	:職員の基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの体調などに考慮しながら声掛けを行い、本人の気持ちに沿ったり、ペースに合わせて見守りながら柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	:個々の希望や生活習慣に合わせた支援をし、行事や日頃からも化粧やおしゃれを楽しんでもらうよう取り組んでいる。2ヶ月に1回訪問理・美容で思いの髪型をされる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	:日々の家事作業(台拭・洗濯物干し、たたみ・おやつ作りや季節の漬物の下ごしらえ等)を無理のない姿勢で、楽しみながら、職員も共に行い個々の力が発揮できる場面作りを支援している。	地元でとれた新鮮な食材が取り入れられており、食材の話をする事によって利用者の箸がすすむこともあるようです。また漬物などは手作りのものを用意され、それを通じて家族との話題づくりにも一役かっているようです。	食事は食欲を満たしたり、栄養を取ったりするためのものではなく、利用者の喜びや楽しみをももたらします。「食」を通して様々な取り組みが今後も継続されることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	:個々に応じた食事・水分量や摂取形態等を主治医(家族)に伺い、無理なく栄養バランス・食事、水分量の確保ができるように日々記録に残し、個々の生活習慣を把握し体調や力に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	:毎食後、口腔ケアの声掛け・誘導・個々の力に応じた(義歯)歯磨きの支援を行い、夜間帯は義歯を預かり洗浄施行し、起床時は毎日緑茶うがいを励行し、必要時は歯科の協力医師による訪問診療支援もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	:排泄チェック表を使用し、個々の時間・習慣等の排泄パターンを把握し、朝・夕の申し送り時、体調・状態変化・排泄状況等の情報を共有し時間を見計らい・誘導してトイレで排泄できるように支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレへの声掛け誘導をされています。状況に応じて紙パンツから布パンツへ移行するなど、利用者の様子の変化を察知し、身体機能に応じた介助がなされています。	利用者の状況に応じたタイミングでトイレでの排泄ができ、快適な生活支援を継続されることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	:排泄チェック表を使用、個々の排泄パターン等を把握し、繊維質の多い食材・乳製品・発酵食品を取り入れ・水分量の確保を図り、軽体操や散歩(歩行)等動かす機会を設け、自然排便ができるように取り組む。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	:入浴の声かけ・確認(目安のバイタルチェック施行)拒否時は時間を置き再確認し、毎日入浴・一番風呂・湯加減等、好みを把握し希望に沿った入浴や草湯・柑橘系湯等楽しんでもらう様に心がけている。	入浴は毎日午後実施されていますが、入浴を拒否される時は清拭や半身のみのシャワー浴などで対応されています。夜間入浴の要望は出ていませんが、夕方の足浴の希望には対応されています。	一人ひとりの意向を大切に、寛いだ気分に入浴できるような支援の継続を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	:なるべく日中の活動を促し、生活習慣の把握やリズムを整え、寝付けない時は温かい飲み物・一緒に過ごし就寝できる雰囲気・環境を作っている。休息は本人の希望の自室・和室・フロアで臥床したりして過ごされる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	:薬の処方や用量変更は随時、申し送りや連絡ノートに記載と処方箋を貼付し(効能・備考)注意点等の情報周知を図り、状態や症状観察を行い随時、かかりつけ医や訪問看護へ連絡・報告で連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	:得意分野で楽しみながら無理なく、一人ひとりの力が発揮できそうな仕事を頼み、季節には青梅やラッキョウの下ごしらえ等と一緒に経験や知恵が出せる場面を作り、感謝の言葉を伝えている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	:季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるように天気や体調に応じて日常的に散歩やドライブなどに出かけ、季節の移り変わり等の体感支援や気分転換が図られるようにしている。	事業所の近くを散歩することに加え、季節の花を鑑賞しに車で出かけられることもあるようです。近くの畑の作物に興味を示されたり、農機具に関心を示されたりと様々な反応があるとのこと。また個別の外出にも対応されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	:本人の希望や小額のお金を持っている人も居られる。神社、仏閣などへの外出時、お賽銭や飲み物代金は動きの可能な方が職員と一緒に代行される。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	:毎年、年賀状と暑中見舞いのはがきを出す為の支援を個々に行う、手作りの版画で模様を押してもらったり、力に応じて職員が手を添え言葉や思いを書いてもらう、家族などからも返信や便りが届く方も居られる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	:生活の中心フロアは、料理やご飯・おやつ等の匂いが楽しめ、吐き出し窓から見える中庭・外庭には季節の花々・野草・樹木・車・人々等、季節の風・香り・日光を浴びての日向ぼっこ、時々顔を見せる動物や鳥、農作業を眺めながら思い々の場所で生活・季節を体感される。	共有フロアにはカレンダーや神棚があり、ソファや畳の間など利用者がそれぞれの好みに合わせた場所で過ごすことができるように配慮されています。中庭では緑豊かな植物、事業所の周りは広々とした畑があり、開放的で風景の移り変わりが感じられる快い空間が広がっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	:窓辺やベランダに椅子を置き日向ぼっこ景色を楽しまれたり、ソファや和室の上がり框で家族や入居者同士会話されるなど、個々の状態や相性などを考慮しながら、思い々に過ごせる居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	:以前、自宅で使用されていたベッド・寝具・家具・小物・日用品など、使い慣れた好みの物・大切な物を家族と相談しながら、居心地良く・安心して過ごされるように配慮している。	利用者が使い慣れた寝具や家具を持ち込まれ、その方らしく寛げる居室作りを支援されています。また簡易トイレや椅子など利用者各自の環境によって対応されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	:個々の状態把握「できる事・わかる事」・状況に合わせた環境整備を行い、状態変化時新たな混乱や失敗等が生じた場合は、その都度、職員一同・家族共話し合い、不安材料の排除で力を取り戻せるよう試みる。		

事業所の周りには畑が広がり、風景の移り変わりを身近に感じることができる環境です。経営者・<sup>1</sup>

管理者ともに地域在住であり地域とのつながりは密にできており交流も活発に行われています。地

3元の食材を使つての漬物を利用者と一緒に作られています。食材も地元で採れたものを極力取り

入れられ